

『人相小鑑大全』（下）巻三〜巻四

浜田泰彦・河戸愛実

はじめに、

本誌前号（第一〇三号）に掲載した『人相小鑑大全』（上）巻一〜巻二に引き続き、喜多村江南軒著『人相小鑑大全』（貞享元・一六八四年八月刊、半紙本三巻合一冊）巻三〜巻四の翻刻を掲げる。使用底本は浜田架蔵本とし、掲載図版も同本に拠った。なお、翻刻凡例は前稿に従うが、以下に再掲する。

【翻刻凡例】

- 一、浜田架蔵本を底本とした。
- 一、漢字の旧字・異体字・俗字は、原則として、底本の字体に従った。
- 一、清濁・振仮名は底本に従った。句点は底本に従ったが、読みやすさの便を図って適宜補った。
- 一、底本の丁移りは「（二才）」のように示した。

箇所がある。左訓は該当する漢字に続けて（ ）に示した。

- 一、『江戸時代庶民文庫』7所収本により、校合を行った箇所がある。

【翻刻】

人相小鑑大全目録 巻中

- ▲眉まゆ総論そうろん之事じ并な善ぜん悪あく見み様やう大だい事じ
おななくつ ろんきつぎやう
- ▲同どう圖と論ろん吉きち凶きゆう之の事じ
- ▲眼まなこ相さう論ろん之の事じ并な富ふ貴き貧ひん賤せん之の見み様やう
- ▲同どう圖と論ろん之の事じ
- ▲鼻はな相さう論ろん之の事じ并な貴き人にん之の相さう
- ▲同どう圖と論ろん之の事じ并な吉きち凶きゆう付つけ
- ▲耳みみ相さう之の事じ并な見み様やう之の大だい事じ
- ▲同どう圖と論ろん之の事じ并な吉きち凶きゆう付つけ』（二才）
- ▲口くち相さう論ろん之の事じ并な大だい事じ
- ▲同どう圖と論ろん吉きち凶きゆう之の事じ
- ▲唇くちびる善ぜん悪あく見み様やう之の事じ

▲同依レ唇命之長短知事

▲齒善惡見様之事

▲同依レ数富貴貧賤之事

▲舌善惡論之事




▲同依レ紋親孝不孝見事』(一ウ)

人相小鑑卷之三 并吉凶見様之事

眉之部圖論




それ眉は。面の莊嚴(かざり)なり。かる。かゆへに。善惡の二境を論ず。しかればまゆは。ほそく。たひらかにながきは。聰明にして知恵あり。まゆふとくして。眼をすぐるは。福德ありて。命ながし。まゆぎやくにはへて。少あるものは。兄弟にさまたげをなす。年よりは。男女ともに。夫妻のゑんかわるべし。眉の中に。ほねありて。外にあらわるゝは。悪相なり。まゆたかくはへて。両のあいだ。ひろきは。貴相なり。まゆすなをにして。四十すぎて。白毛まじり成は。長命にて百歳おも。すくべし。まゆゆたかにして。黒。つやあるは。富貴なり。まゆのうへに。横に一文字のごとく。すぢあるは。一生貧苦たへず。眉』(二オ)の中に。くぼき所あるは。かならず刀(かたな)難にあふ事あり。つゝしむべし。まゆうすくして。うぶ毛のごとく成は。うれひたへず。一代思事あり。まゆたかくして。毛ながきは。位にのぼるべし。まゆほそく。毛みぢかきは。たんめいなり。まゆのしりあがり。つゝごとかたるは。たんきにて。あはれみの心なし。まゆ三ヶ月のごとく成は。知恵ふかく。命ながし。まゆ眼をすぐるは。親に孝行なり。まゆのかしら。なめらかにして。四すぢ上へあがりて

あるは。兄弟のあとしきをとる。まゆのかど上りて。みぢかきは。男女ともに。子にゑんうすし。左のまゆに。『一此もんあるは。父をさまたぐる。右のまゆに』二あるは。母をさまたぐる。まゆと。眼の間せばく。目の上にまゆはへかゝりたるは。愚痴にて。いやしきなり。髪あつく。眉毛あかく』(二ウ)して。薄は貧賤なり。まゆの毛まぢりて。上と下へわかるは。兄弟にゑんうすし。たとへば。一人二人兄弟ありても。他國のすまひをする。又一所に居ても。中あしくして。力にならず。まゆ。あつくあと。さきみぢかきは。たんきにて手にげいもなくして一代思事たへず。あとさきながくして。五日の月のごとく成たるは。名譽の人にて。天下に名をあぐる。眉のかしらにならんで。痣三つあるは。天下の道人と成相なり。ことくくは。圖に見へたり。よく見合て。考知るべし』(三オ)

眉 掃	眉 散 疎	眉 鬼
		
掃帚眉といふて。よく。ほうきのごとく成眉なり。三十までは。苦勞たへず。年寄て。仕合よし。但兄弟に縁うすく。たとへ有ても。力にならず。	疎散眉といふて。心ちいさく。衣食ありても。貧ものより。不自由なり。心大きくして。人に。ほどこせば。いよく吉。心入により。殊外悪かるべし	鬼眉(まゆ)といふて。心に毒あり。たとへ仕合よきとても。金銀思やうにならず。つねにやからいふなり。男女ともに。つゝしみてよし

眉子獅	眉劍	眉葉柳	眉龍	眉漢羅	眉字八	眉刀尖	
男女ともに子にゑんなし	獅子眉といふて。まゆたかくはゑ。威ある相なり貴人なれば。一度遠渡する。下々は中年まで。るらうすべし。	繁昌すべし	柳葉眉といふて。やなぎのごとし。心清 たのもしき生なり。子二人あり。一人名譽の人なり。学文さすべし。後は天下に名ある物しりと成べし (四才)	龍眉といふて。心大きくして。たけきなり。武家は。いよく吉。一國の主と成べし。いやしき事を。いとなめば悪。たとへ貧なりとも。心を清持なしてよし	俗ともに。信心なればよし	此人には。子ふさわす。外へ。やりてよし	尖刀眉といふて。心じやけんにて。慈悲なし。人にあいきやうなく。一生物いひ事。口舌あり。中年に命あやうし。信心のおこし。心すなをにしてよし (三ウ)


眉秀清	眉促短	眉虎	眉月斜	眉字一	眉清輕	眉後清
て。学文に志ふかく。下々をあはれむ生也	清秀眉といふて。貴眉なり。眉毛ながくして。眼のわき。一寸すぐべし。清秀の眉。おふくはなし。知恵あり	虎眉といふて。威あり武家ならば。物頭と成出家は。弟子あまた持一國の師と成なり。僧俗ともに。慈悲心なし。人に物を施て福田とすべし	新月眉といふて。貴人なり。つねに悦びたへずして。たのしみ多し。但下人に縁うすし。下々に慈悲をくわへて遣べし。心入あしくは。火難におふなり	一字眉といふて。富貴にして。智恵ふかく。少年の内は。他人の手にわたり。十八九までは。苦勞あり。さりながら。年よるほどよし	輕清眉といふて。心すなをにして。親兄弟に。縁ふかく。みな柔和なり。年よる程仕合よく思事なし。さりながら。男女ともに。夫妻の縁うすし (四ウ)	清後眉といふて。名聞ふかき相なり。つねに物に。かゝりにて。いろくの事をたくみ。人をかたらひ。金銀を取。人に損を懸る生也能慎てよし








眉 螺旋	眉 加交	眉 新聞
		
<p>天地は日月によつて光をなす。故に日月は萬物のかゞみたり眼は一身の日月なり。左の眼は。日にて父の象。右の眼は月にて母の象なり。ねむる時は。たましひ心に處。さむる時はたましひ眼に處すたましひの遊息するなり。故に。眼の善悪を見て吉凶をさたむ。眼ながくひかり。うるをひあるは。富貴にして。智恵ふかし。眼の内くろく明なるはよく。詩文にたつし。能書なり。眼くぼくして。黒ひかりあるは。福德ありて。思ひ事なし。眼ほそく落入て黒きは。長命なり眼だま外へあらはれ。見ゆるは。短命眼の中たかく。まじり上て。うろつく者は。姪欲ふかく。男女とも短氣なり。又男女ともに不儀にして。生ずる所の子は。眼の両方不同にて。男子は左の眼大きく。右の眼ほそし。女子は左ほそく。右大きく。人を見るに赤すじ』(六才) 掛て</p>	<p>間断眉といふて。悪し。眉の毛あかく。上と下へ分なり。此人は一生貧賤にして。思事たへずあるひは。姪欲ふかくして。男女共に。身をうしなふなり</p> <p>交加眉といふて。眉上下へまぢり。網を見るがごとし。あく眉にて。親に。ふかふにて。心じやけんなり。たとへ仕合よきとも。心入により。年寄口舌たへず。悪かるべし</p> <p>旋螺眉といふて。威勢ある眉なり。つねのものは。よからず。武家は。殊外よし。高名し。天下に。一人としらるゝほどのものなり。まれなるまゆなり』(五ウ)</p>	








眼目の論相

天地は日月によつて光をなす。故に日月は萬物のかゞみたり眼は一身の日月なり。左の眼は。日にて父の象。右の眼は月にて母の象なり。ねむる時は。たましひ心に處。さむる時はたましひ眼に處すたましひの遊息するなり。故に。眼の善悪を見て吉凶をさたむ。眼ながくひかり。うるをひあるは。富貴にして。智恵ふかし。眼の内くろく明なるはよく。詩文にたつし。能書なり。眼くぼくして。黒ひかりあるは。福德ありて。思ひ事なし。眼ほそく落入て黒きは。長命なり眼だま外へあらはれ。見ゆるは。短命眼の中たかく。まじり上て。うろつく者は。姪欲ふかく。男女とも短氣なり。又男女ともに不儀にして。生ずる所の子は。眼の両方不同にて。男子は左の眼大きく。右の眼ほそし。女子は左ほそく。右大きく。人を見るに赤すじ』(六才) 掛て



あるは。心あしく思ひよらざる事にて死す。半眼の人は心入あし。眼みぢかきは愚痴にして。賤なり。眼の下はまくりがいのなりしたるは。たつとき子を生なり。女の目の下あかきは。難産におふ。うへした。まぶちあつきは。男女ともに。姪欲ふかし慎てよし。秘訣にいわか。まなこ長は。貴相眼大きく。ゆたかにひかりあるは。田地多もちて。下人に縁あり。眼三角なるは。悪人にて。心に毒あり。眼の長事。一寸ありて。はげしく威あるは。百萬の大將となりて。人のうやまふ生なり。出家は國師と成べし蜂の眼のごとく成は悪き死をする。眼のよく。あかく黄なるは。一生わざわひたへず。心に氣遣あり。眼は清して。ゆたか成はよし。眼の内。白ところ多は。女はいじやく。ふかく。男をさまたぐる也。男はたんにて。女をなやます。眼大きく赤は男女ともに病たへず。』(六ウ) まなこの内。ちりのまぢりたるごとく成は。貧賤なり。眼のまろく黒は。男女共にかしこきなり眼の内分明にして。黒は忠心あり。鶏の眼のごとくなるは。盜賊の心たへず。両方の。まなこひかりありて。あきらか成は。武家物大將と成て。慈悲心ありて。智恵ふかし。ゑんかうのまなこのごとく成は一度は。狂乱して。わずろふなり。心入あしければ。さいく心さはがしくして。口舌たへずことく圖に見へたり能々考べし』(七才)

龍眼

<p>龍眼といふて。黑白分明にて。威ある眼なり。出家武家は。いよくよし。但短氣にて殺生を好べしかたく。憤て哀の心をおこしてはよし。年寄程福德有</p>

眼 牛	眼 虎	眼 獅	眼 鷲	眼 象	眼 龜	眼 爪
						
牛眼といふて。まろく。大き成をいふ。一生仕合吉井五六にて。他の妻を論ずる事あり。ふかく慎てよし。心入により。命あやうし。佛神を信すべし』(八才)	虎眼といふて。眼大きく。黑白分明にして。位あり。さりながら。年寄て。子に苦勞あり。男女ともに。子どもあらば。他所へ養すべし。一代船の上を慎てよし	獅眼といふて。黑白明にちいさく威ある眼なり。獅子は。毛物の王也。かるがゆへに。獅眼の人は。仁義あり。諸人うやまふべし。つねに。下々をあわれみてよし	鷲眼といふて。眼といふて眼分明にして。ちいさく豊也此人は平生心実にして。親に孝行なり武家は忠心ふかく主君の氣に入加増を得へし年寄程よし	象眼といふて眼ほそくまじり上りたるをいふ。此人は仁義たゞしく。慈悲心もあり。出家医師は。いよく能。一國に。名ある人と成べし』(七ウ)	龜眼といふて。まろく明に。ひかりあるをいふ。富貴にして。命長武家は。中年に知行にはなる事有べし。つねに。信心をおこし。観音を念すべし	鳳眼といふて。ほふわうの眼のごとし。是貴相なり。たとへ下々にても。心清もちなし。きれい成事をいとなむべし。賤事をなせば。ことの外あしし

眼 馬	眼 魚	眼 羊	眼 鶴	眼 美社	眼 鵝	眼 雀孔
						
馬眼といふて。眼三角にして。目の玉外へあらわるゝをいふ。悪人にて妻子をころし。人をねたむ性なりかやうの眼あらば。恐て用心すべし	魚眼といふて。短命にて。少年より。病たへず。廿四五にて。死すべし。又下々は一代の内公事多して。難にあふ。よくく佛神の信すべし	羊眼といふて。悪眼なり。一生貧賤にして。親に不孝なり。たとへ中年仕合よきとて。志あしくして。年寄程貧なり。大信心のおこし。後世をねがふべし。	鶴眼といふて。黑白清すゝやかなるをいふ。此人は。一國の家老と成て。天下に名ある人也。常に慈悲深聡明也。さりながら。子に縁なく。老て子孫のなげき有』(八ウ)	桃花眼といふて。眼ちいさくほそし。男女ともに。かたちうつくしく。夫妻にゑんありて。貴子二人有。一人は出家の志ふかく。少年より。学文させ。十二才にて。僧となすべし	鵝眼といふて。黑白分明なり。十四五までは病にたへず。苦勞あり。さりながら。中年過て。仕合能思事かなふべし。一生かたく殺生をいむべし	孔雀眼といふて。青黒にして。光あるをいふ。若白所すくなきは。志あしかるべし。惣じて此圖に似たる眼は。心しづかにて。氣おもし常に文殊を信すべし





眼 猫	眼 雀	眼 鹿	眼 猿	眼 鶴	眼 蛇	眼 猪
						
<p>猫(ねこ)眼といふて。眼黄にして。黒く。いりむこ糞子にゆくべし。常に。心いそがはしく。妻子に苦勞あり。四十にて。大病ありて。命あやうし慎てよし</p>	<p>熊(くま)眼といふて。くまの眼のごとし。力つよく。心たけきなり。若年の内。田鼠家賊に付。論する事有。男女ともに始の縁かはり。後縁ふかく。五人もつべし</p>	<p>鹿眼といふて。眼長。黒白分明なり。富貴にして。慈悲ふかく。長命なり。下人の内に。發明なるもの有是を養子として。跡式をゆづるべし』(九ウ)</p>	<p>猿眼といふて。さるの眼のごとし。男女共に。一生貧賤にて。苦勞たへず。心持により。中年より。仕合よし。不信心なれば。老て。飢死にする也。つゝしみてよし</p>	<p>鶴眼といふて。眼の色黄なり。男女ともに姪欲ふかくして災あり。此人は常に。まことすくなく。きよごんいふべし。よく慎て吉。但し男女共に井五六にて。損あり</p>	<p>蛇眼といふて。心まがり。愚癡なり。物事氣にかけて。あるひは我家に。からす。せつくなき。犬が長ぼへしたるを。氣にかくる性なり。烏も犬も。口が有ほどに氣にかくべからず</p>	<p>猪眼といふて。十八九までは仕合よし。中年過て。何事も心のまゝならず。苦勞たへず。但子に縁なし。養子すべし。又出家は寺建立の心あり。老て調べし』(九オ)</p>








眼 鷺	眼 燕
	
<p>一生さびしきなり』(十オ)</p>	<p>燕(つばめ)眼といふて。眼ふかく。黒白明にして。一生食物多し。さりながら。つねに。苦勞たへ。す心正直にて。神佛をしんくしてよし</p>

鼻の部圖の論

鼻は一面の表たり。是を。人中停といふしかるに。肺虚する時は。はな通ず。肺実する時は。鼻ふさがる。かるがゆへに。はなの通塞是を以て。肺の虚実をする。富貴貧賤の四相寿命の長短をつかさどるなり。ゆたかにして。ひかりあるは。富貴にて長命なり。色黒く。鼻のにく薄は。短命なり。鼻のさきほそきは。あく心ありて。人をねたむ。鼻に横(よこ)紋あるは。馬船の上をつゝしむべし。かならず。わさわひあり。鼻の穴。三分ほど。上に。あかき紋あるは。他のあとしきを取鼻まとかにして。あまりにたかからずしてうるをひあるは。夫妻のゑんあり。鼻あがりたるは。たんきにて。人をそねむ。心ありて。一度は家をやぶるなり。鼻ゆたかにして。肥たるは。一生食物多し。』(十ウ)さりながら。中年に思事あるべし。はなとがりて。にくうすききは。貧賤なり。はなのかしらほね。ちいさく短かきは。たんなめいなり。はなみぢかく。ほねあらわるゝは。かならず。他國にて死す。鼻よく。なれあい。ゆたか成は。智恵ふかく。富貴なり。はな

のかしらとがり。ちいさきは。貧賤にて。短命なり。はなゆたかにながく。分明なるは。長命にて。百歳をも。すぐべし。鼻のうへあがりて。さを。そいだごとく成は。親に不孝なり。はなちいさく。穴大きなるは。金銀手にたまらず。鼻まろく。肉あつきは。富貴にて。子孫繁昌なり。鼻の色。黒青。きは。人をなやまし。害をする也。鼻うへにあがりて。ちいさきは。かならず餓(うへ)死すべし。ことぐく圖に見へたり考べし』(十一才)


鼻獅	鼻羊胡	鼻虎	鼻龍
			
獅子鼻といふて。貴鼻なり。命ながく。位たかし出家武家は。いよく吉。さりながら。男女とも。三十にて病あり。常に糶生して。能つゝしむべし』(十一才)	胡羊鼻といふて。鼻大きく。豊なり。中年までは。親の住所をはなれず。四十にて。災ありて。我より。めうへの人と。公事すべし。慎て吉。但夫妻の縁ふかし	虎鼻といふて。物がしらとなりて。下々を多持但中年にすこし災あり。くるしからず。年寄ほど富貴にて。よき子をもつべし。能学文させてよし	龍鼻といふて。豊にうるをひ。色うすぐれないのごとく也。富貴にして。仁義正く。位あり。下々をあはれむべし。年寄程仕合よく。子孫繁昌すべし

鼻鋒劍	鼻魚	鼻狗	鼻猴	鼻盜賊	鼻孫	鼻牛	
							
劍鋒鼻といふて。鼻かたなのむねのごとし。此人は。兄弟に縁うすく。廿三四の比より。苦勞あり。さりながら。大信心おこして。観音を念すべし。信心あれば老てよし	鯽(いか)魚鼻といふて。鼻たかく。魚のせなかのごとし。衣食多し。男はよきつまをもつ。女は福德の男を持さりながら。始の縁は。かはりて。後にゑんあり	狗(いぬ)鼻といふて。いぬのはなによく似たるをいふ。富貴にして。義あり。男女ともに子多もちて。一生田宅あり人よりうやまはれて。思事なし	猴鼻といふて。鼻ゑんかふのごとく也。悪人にて常に人をさまたげ。盜賊の心終にやまず。大菩提心のおこし。心持をなすべし。心入により。命あやうし』(十二才)	一生愁たへず思事あり。出家はよし。僧俗ともに。人にあいきやうあり。町人はわろし	盛囊鼻といふて。富貴にして。命ながし。しかれども。病難に逢べし。信心のおこし。佛神のまつるべし	蒜(にら)鼻といふて。はなちいさく。たいらかなり。親兄弟の中よくして。福德あり。さりながら。中年過て。親難に逢べし。信心のおこし。佛神のまつるべし	牛鼻といふて。鼻大きく。ゆたかに分明なり。他人の跡式を取べし。信心ふかき人ならば。いよく繁昌なり。不信心ならば老て災あり。能々慎てよし


鼻 竇	鼻 竇	鼻 竇	鼻 竇	鼻 竇 欲
				
<p>来て難に逢なり。五十過ては。何事も心の儘なり』(十三才)</p>	<p>合よし。しかれ共。四十の比。一もんの内より。災出</p>	<p>鹿(しか)鼻といふて。富貴にて。田地を多く持也。子</p>	<p>狸鼻といふて。武家は中年に高名ありて。加増を得</p>	<p>思事なし老てよし』(十二才)</p>








耳の部圖の論

それ耳は實腦を生して。心胸に通ず。是心のつかさなり。腎氣さか
 んなる時は。清して。聰明なり。耳あつく。ながきは。寿相なり。耳
 の輪廓あざやかなるは。聰明にして。富貴なり。又肉あつく。耳の
 中に毛はゆるは。長命なり。耳の中に。痣有は。貴子を持つ妻にゑん
 ふかし。耳の穴廣は。必知恵あり。穴の口の色うすかふはい成は。

耳 土

<p>土耳といふて。耳あつく大き也。富貴にして。子孫多し。 男女ともに。夫妻にゑんふかし。出家武家はいよく吉。 耳の中に毛あらは。長命にて百歳をすくべし</p>

位たかし。耳の色しろく廣は。名をあらはす色赤黒は貧賤也。耳う
 すく。まへにかたむきたるは。田地家屋敷に縁うすく。親のゆづりの
 賤宝をうしなふ。耳左右不同なるは。悪人にて。男は妻をなやまし。
 女は男をころし。人をねたむ性なり。かたく慎て吉。耳きわめて黒は
 愚癡にて貧なり耳木のごとくにかたきは。苦勞たへず。耳ゆたかに。
 まとかなるは。衣食多』(十三才)して。人うやまふなり。古人い
 わく。貴人に貴眼あれとも。貴耳なし。能相者そのかたちを。見るべ
 し。耳かたまでたるは。聖賢の相なり。耳うすき事。紙のごとく成
 は。心に毒ありて。人をなやます。兎の耳のごとく成は。貧にて短命
 也。耳門ゆたかに廣は聰明にて。一城の主と成べし。耳眼より高は。
 富貴にて。他の跡式を取べし。耳高事。眉より。一寸ならば。子孫繁
 昌也。耳たかくして。輪廓たゞしきは。一生安樂也。耳門たれて。
 厚は富貴にて下々を多持耳門客筋あるは。貧にして。住所さいく
 替なり。耳にうさぎの毛のごとくはゆるは。つねに仕合吉。輪廓分
 明にして。光あるは。仁義正しく詩文に達す。耳反て輪なきは。小人に
 て。たんめいなり。青黒にて。皮うすきは仕合よく。親兄弟にゑん薄
 し。白事面にまざるは。高名ありて。天下に名を残す。耳後に付て。
 前より見へざるは。貧にして。思事叶ず。悉圖に見へたり』(十四才)

耳穴	耳水	耳木	耳金	耳羽箭	耳虎	耳子棋	
							
るしみあり。常に一代の。守本尊を信すべし。(十五才)	火耳といふて。耳大きく眼より高田地多く持て仕合よし。然共子にゑんうすし。其身も。中年より。大病ありて。く	水耳といふて。輪廓ゆたかに正きをいふ。此人一門。ひろくして。子孫多し。さりながら。若年の内住所さだまらず。苦勞あり。中年過て。兄の跡を取て身躰宜なり	木耳といふて。ゆたかにして。高事眼の上にある。富貴にして。位たかく。男女ともに。人にうやまはるへし。但殺生を好心あり。かたぐ慎。下々をあはれみてよし	金耳といふて。耳まゆより高。白事。面に過たり。耳中の玉明なり。一生富貴にて。人に用らるべし。但子にゑんうすく。老て子孫のなげきあり	箭羽耳といふて。眉より一寸高して。大き也。親の賤宝ありといへども。一度は家をやぶりて。方々と。他國のすまひをする也。さりながら。年寄てよし(十四ウ)	虎耳といふて。耳ゆたかにして。ちいさく光あり。一生あんらくにて。思事なし。子三人あり。内一人貴人にて親に孝行なり。少年より。学文させてよし	棋士耳といふて。耳ちいさく。輪廓たゞしきをいふ。貴にして。威儀ありて。人用べし。さりながら。子に縁なし。狼子して吉。四十過て。夫妻にはなるゝなり慎てよし

耳鹿	耳風扇	耳花開	耳腦貼	耳肩垂	耳及倦	耳猪
						
り。よくくたしなみ。心入なすべし	扇耳といふて。耳とがり。うすきをいふ。一生貧賤にて。うれひ多。つねに。うそをいふて。中年より盜賊の心あり。よくくたしなみ。心入なすべし	開花耳といふて。耳の肉うすく。分明ならず。若年の内は。方々流浪して。仕合悪し。老て福德あり。さりながら。一生火難に逢事多し慎て。吉	貼腦耳といふて。耳あつく。大きなり。親兄弟に縁ありて。心にふはなり。井五六にて。他國へ行身体もつ心あり。成程よし。年寄程安樂なり(十五ウ)	垂肩耳といふて。ゆたかにながく。輪廓あきらかにして。光あり。出家武家は。いよくよし。常に学文の好心清浄なり。町人百性はふさはず慎べし	佛神のまつり。いよく慎てよし	猪耳といふて。輪ありて。廓なし。中年までは。仕合よし。四十のころ災ありて。思事たへず。つねに信心もな。義なければ。大事出来て命あやうし

耳 驢









驢耳といふて。耳前に。かたむきて。ちいさくうすし。貧賤にして。親に不孝なり。心の持やうにより。中年に。命をそこなふなり』（十六才）

口の部圖論 并 唇舌善惡の論

口は言論の門。飲食の通ずる所。一心の外戸。是非を。會する處なり。端厚にして。妄誕せざる是口の徳なり。誹謗多言なる。是を口賊といふゆへ善惡を上げて論ず。口潤くゆたかなるは。命ながく貴なり。口弓のほこのなりしたるは官禄あり。横ひろくして厚は富貴なり。厚ゆたかなるは。衣食多し。口四の字のごとく成は。富貴にして。知恵ふかし。口とがりて。うすきは。貧賤なり。馬の口のごとくに。ものいわずして。うごくは。うへて死す。兎の口のごとく成は。心じやけんにして。人事をいふなり。口火を吹ごとく成は。孤獨なり。口ひらけて。齒あらはるゝは。下賤なり。口中しゆのごとくにあかきは。仕合よし人なきに獨事いふは。さだまつて。下々なり。舌おふきに。口ちいさきは。貧（十六才）薄にして。短命なり。口ちいさく。舌長は貧なり。口ゆたかに声きよきは。善相なり。唇は。うすきを好。口角弓のごときは。官位たかし舌薄は。音声よく。口びやうし吉。口の色むらさきのごとく成は。仕合よきとても。悪心ありて。人をさまたく。口中に痣あるは。虚言多く。口ゆたかに。光ありて。舌あつきは。貴人にて親孝行なり。くわしくは。圖に見へたり。能考へし

口羊	口虎	口龍	口牛	口月仰	口方	口字四
羊口といふて。食するに。狗の喰がごとし。つねに悪事を好み。人をねたむ心あり。是悪相なり。中年より。年寄程いよく貧賤なり	虎口といふて。威ありて。心すなをなり。出家武家は。いよく吉。天下に名をあくべし。さりながら。井過て。親類の事に付。大きに苦勞あり』（十七才）	龍口といふて。口ゆたかに。分明なり。心清智恵ふかし。作業も。きれいな成事をして吉。悪事をなせば。却て。大病をうけて。命あやうし	牛口といふて。口ゆたかに。口びる厚し。衣食多して。親兄弟に縁ふかく。中年に。思ひ事有といへとも。年寄程仕合よく。あんらくなり	仰月口といふて。五日の月のごとし。富貴にして。智恵ふかく。文章に達し。位にのぼるべし。卅の比災有。くるしからず。老て吉。下人に能者を持力をうべし	方口といふて。牙あらはれず。唇紅のごとし一生富貴にて思事なし。男女ともに夫妻にゑんあれども。子にゑんなし。羊子して吉』（十七才）	四字口といふて。光明ありて。うるはしく。ひとしきをいふ。智恵ふかく。学文ありて。三公の位に上る出家は。天子よりの紫衣着すべし

口魚柳	口魚鮎	口猴	口龜孫	口火吹	口猪
					
何事も。心のまゝならず。さりながら老てよし	鮎(い)か)魚口といふて。口とがりて。ちいさく。ゆたかになし。衣食なく。一生心に氣遣たへず。苦勞ありて。	鮎(あゆ)魚口といふて。口豊ならざるをいふ。一生貧賤にて。虚言をいふ。心乱がはしく。思ひ事有。心をすなをに持なし。親に孝行にしてよし	あはれみ。觀音供養して吉	吹火口といふて。火を吹口のごとし。衣食に縁なく。つねに論を好也男は女にゑんなく。女は男に縁なし。男女共に。心持をなおし。慎むべし。心入により。深愁あり	猪口といふて。上のあぎとながくて。下唇とがりちいさし。出家はよく。俗人は。口舌たへず。妻子に縁なし。たとへ仕合よきととも。つゐに家を破べし

唇論

唇は。口の城廓かるがゆへに。舌の門戸なり。唇あつく。あかきは。富貴なり。青うすきは。災ありて。短命なり。唇黒きは。病たへず

(十八ウ) 紫色に光あるは。衣食多し。唇白は能妻子を持唇ちゞみて薄は。貧賤なり。上唇長は。父を妨る下唇長は。母をさまたぐる。上唇薄は。虚言あり。下唇薄は。貧賤なり。上下厚うるをひあるは。忠誠ありて。心すなをなり。唇上下うすく。とがりたるは悪口。両説をいふべし。唇上下せばく色あしきは。貧して盜賊する。龍の唇富貴なり。羊の唇。貧賤なり。唇。肝ごとく成は。老て貧寒なり。唇青黒は。かならず。餓(うへ)死す唇の色紅のごとく。ひかるは。長命なり。下唇より。ながきは。夫を妨法をそむく。唇常にあかきは。貴人也。上唇厚は。短命。下唇長は。食をむさぼる唇の上に紋ありて。花に似たるは。一生富貴なり

齒論

齒は百骨の精花。口の鋒刃たり。万物を運化して。六腑と成。(十九オ) 齒大きく。蜜なるはよし。白長は。貴相なり。蜜にかたきは。命ながし。むかふ齒そりて。外へあらはるゝは。貧賤なり。物語するに。齒見へざるは。聰明にて。富貴なり。齒三十八枚あるは。聖賢の相にて。天下に一人と成べし。三十六枚は。高官にのぼる。三十四枚は。大夫の相三十二枚は。中人にて福德あり。三十枚あるは。平人。二十八枚以下は。貧賤なり。色白玉のごとく成は。高位にて。人うやまふ劍鋒のごとく成は。貴くして。長命也。上齒とがり下齒大き成は。衣食多し。単の齒のごとく成は。貧にして命短し。三十六枚以上は。聖貴之相三十枚は。衣食三十枚以下は賤なり。二十六枚以下は。極貧にて。餓死す

舌論

舌は一身の宝剣たり。道たり。こゝをもつて。一身の得失を』(十九ウ) あらはず。古人いわく。舌は長利なるをよしといへり。大きくして長色くれないのごとく成は。聖賢の相短は。貧賤なり。ほそく長は賊の心あり。大きく薄は妄語多。尖てほそきは。貧也。舌長事。鼻に。いたるは。物云事。妙なり。色しゆのごとく成は貴し。色黒は賤なり。白は貧賤なり。舌蛇のごとく成は。心毒ありて。人をそこなふ。ものいわずして。舌。口びるにあるは。姪乱なり。舌短厚は愚痴なり。黒して大きなは。病多く。舌ちいさくながきは。官位にのぼる。口ちいさく。舌大きなは。人をねたむ。舌ちいさく。口大きなは。口にてのげい。上手なり。舌うすく。みぢかふして。ちいさは。貧賤なり。その上に。心ざしあしければ。けん難に逢。常に信心の取つゝしむべし。舌に此やうなるもんあれば。貴子をもつ。夫妻のゑんふかし。舌大きく』(二十オ) して。色紅のごとく成は。富貴にして。親に孝行にて。下人数多あり。万事心のまゝなり

人相小鑑卷之三終』(二十ウ)

人相手筋小鑑大全目錄卷下

- ▲手之筋見様之事并 善惡之事
- ▲八卦十二宮之圖之事
- ▲三公奇紋之事并 吉凶之事
- ▲命之長短(ながみぢか) 見様之事
- ▲富貴貧賤之事并見様

商 諸識善惡之事

住所吉凶之事并見様

武家筋之事并善惡之大事』(二オ)

諸藝之筋見様之事

縁不縁之事并吉凶之論

聰明学者之筋之事

位見様之事并百性町人筋之事

盜賊之心有筋見様之事

親孝行筋之事并 不孝之論

手之内紋見様之事

能書之筋之事

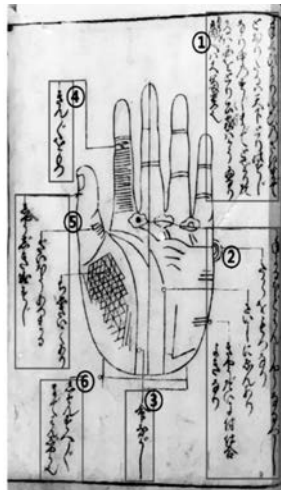
手之圖論之事并善惡之大事』(二ウ)

人相小鑑卷之四并手筋善惡見様之事

それ手のすじといふは。手は。一身之自由する事を。つかさどり。取捨(とりすつる)の二つを用とするゆへ。一身の善惡一代の吉凶壽命才智福德あらゆる業まで。みな手に属す。かるがゆへに。筋にあるはるゝなり。手の内。長者は。慈悲ふかく。能ものを書べし。手の内みぢかく。あつきものは。他の物を。むさぼるなり。ゆびふとくして。手の内短く厚は。盜賊の心あり。手だれて。膝をすぐるは。聖賢の相。手腰を過ぎる者は。一生貧賤にして。思ひ事たへず。手ちいさくして。身の大き成は。福德あり。武家は高名して。加増を取相。手大きくして。身のちいさきは。心きよく才智博学なり。さりながら。貧なり。古への聖賢のごときなり。又手うすく。削たる』(二

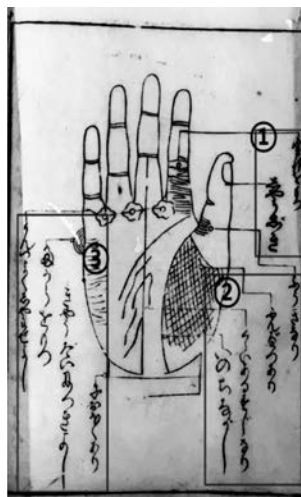
(オ)ごとく成は。一代貧賤なり。手の内たゞしく厚は。富貴なり。手の内あらく。こわきものは。下賤なり。手ゆたかに。ほそきは。清々(マツ)たつとし。手の内香あるは。貴人なり。又悪き。かあるは。下賤。ゆひほそく。長は。聰明にて。智慧□□ゆひ短くふときは。愚痴にして。賤人。ゆびあらく。おろそか成ものは。一度家をやぶるべし。ゆび春のたかなのごとく。見ゆるは。きよくたつとし。葱を刺かごとく成ものは。武家はいよく吉。忠孝の侍なり指あらく。竹の節のごとく成ものは。一生貧賤なり。手うすく。にわ鳥のあしのごとく。見ゆるは。智慧なく。思ひ事たえず手なめらかにして綿のふくろのごときは。能書にて詩文にたつす。手の皮。つらなりて。鵝の足のごとく成は。至てたつとく。掌の内。みちかくして。うすきは。貧賤。掌のうち(ニウ)こはくして。圓きものは。愚癡なり。四畔ゆたかにして。中くぼきは。富貴。四畔の内にくうすく。中たひらか成は。ざいほふあり。掌うるおひて。豊に成たるは。富貴なり。手かはき。うるおひなきものは。貧賤にして。命みぢかし。掌の内べにを。ぬりたるごときは。貴なり。あおく黄なるは。貧賤にして。一代苦勞あり。白色なるは。まづしくして。親に。ふかふなり。手の内に黒子あるは。智慧ふかし。手ほそく。掌の内ゆたかにして。うるおひ。指の色。くれなひのごとく見ゆるは。富貴にして。天下に名をあげ。高位に。なるべき人なり。もろこしに。ていらんといふ人あり。十五のとし。母におくれ。ながきわかれをかなしみ。母のかたちを。木像につくり。存生の人につかへるがごとくせり。丁蘭が妻。ある夜の事なるに。火を(三オ)もつて。木像のおもてをこがしたれば。か

さのごとく。はれ。うみながれ。つまのかしらいたみ。髪の毛をちた。妻おどろいて。わび事をするなり。ていらんも。奇特に思ひ。木像を大道へうつしおき。妻に三手託事をさせれば。一夜の内に。雨風のおとして。木像は。おのづから。内へ帰りたるなり。それよりは。かりそめの事をも。木像の氣色を。うかがひたるなり。かやうの不思議あるも。おや孝行のゆへなり。丁蘭に。かくのごとく手のすじあり。何事も。手筋に。あらはればざといふ事なし。よく考見るべし(三ウ)



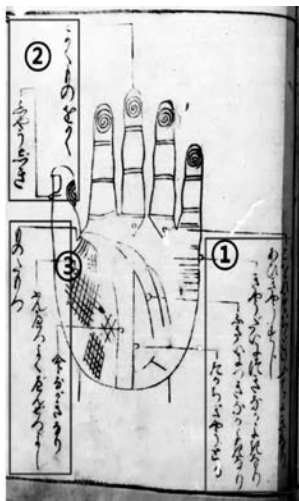
(四オ)

①手くびよりゆびのさきまでとおりたるは天下とりのすじなり中のすじまでとをりたるは國をとり公家(くげ)はかうゐなり商人(あきんど)は大富貴也 ②手よるほどはんしやうなるべし ③命ながし ④きんぐをもつ ⑤ちきやうだいに付合よきなり ⑥しやうじき成すじ ⑦しそんすへくまではんじやう也(四オ)



(四ウ)

① 金銀をもつ しやうじき ② ふうきなり ふんべつあり くらいあるすじなり いのちながし ③ 子おほくあり きやうだいにつきよし ことからもつ うんつよくしやわせよし』(四ウ)



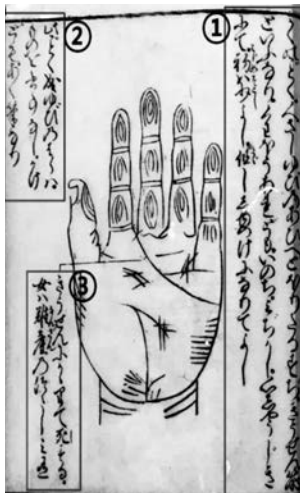
(五オ)

① こをれすぢといふてよきなりあひきやうすじ きやうだいにつきな かよきなり ふさいにつきなかよきなり たらぎやうとる ② よくものをかく しやうじき ③ 命ながきなり ふんべつよくべんぜつよし ものたもつ』(五オ)



(五ウ)

① きんぐをもつ しやうじき ちゑあれどもしやはせ半吉なり ② こをれすぢ ③ 子どもなし ふうふさだまらずして思ひ事有 たからおほくもつ ふうきなるすぢなれどもおほくあしきことあり』(五ウ)



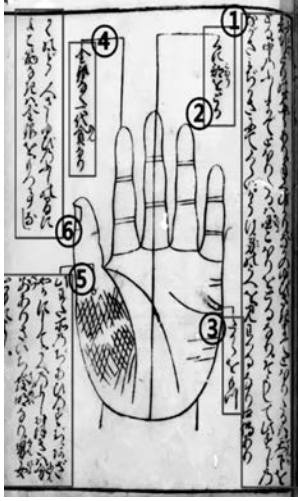
(六オ)

① かくのごとく。人さしゆびのあひへ。とほりたるすぢ。きうせん筋といふなり。くわほうあれども。いのち。みぢかし。心しやうじきに。初は少よし。但しゆつけになりてよし ② 此ごとく成ゆびのはらは。ものを書事なし。かけども。あく筆なり ③ きうせんにかゝりて死する。女は難産のつゝしみ有』(六オ)



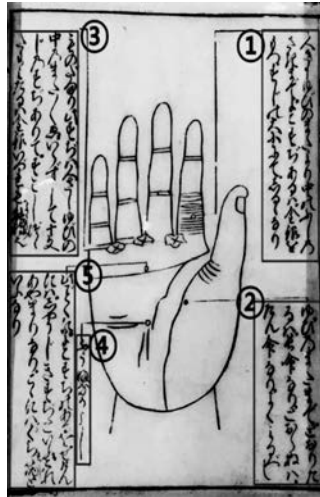
(六ウ)

①かくのごとくのみすかけずぢといふは。手の内をとほりたる也。一代のたからなり。ことの外よし ②分別なきすぢ也 ③此ごとくにしてゆびさきのきめ。圓成たる者。まれなりあればよく物かくなり ④此すぢは。一代の間。思ひ事なし。心しやうじきなり。神佛につかへてよし。命ながし。但し分別なし。子三人あるべし。りせんあきなひして。なをくよし』(六ウ)



(七オ)

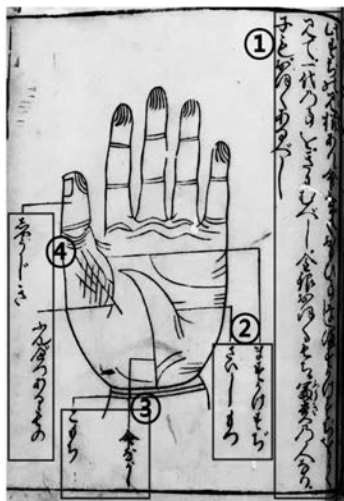
①知行とりの見やうあり。手くびより。なかのゆびさきまで。とほりたるは。天下をとる。中のふしまでとほりたるは。國こほりをとるなり。そうして此すぢのながさみぢかきにてくらい。かうけ。身のうへを見わくるなり口傳あり ②くに郡をとる ③たからをもつ ④金銀なく一代貧なり ⑤此わた所のぢあひのすぢ。あざやかにして。うへのふしおほきは。分別ありさいち發明なり。男女ともによし ⑥かくのごとく人さしゆびのふしの間によこ筋なきは。金銀をもつ事なし』(七オ)



(七ウ)

①人さしゆびのまたより中のふしのさきまで。よこすぢあるは。金銀をもつ。すぢの大小にて。しるゝなり ②ゆびのまたまで。とおりたるは。長命なり。とおらぬは。たん命なり。よくみるべし ③ものだまり此すぢは。人さしゆびの中のまたくゑ。いらざして十文じのすぢありて。すこしづゝたわみたるは金銀いづれも能持也 ④ふうふなかよし ⑤此ごとくに。よこすぢのあるを。せけんには。しやうじき

すぢといふ。これあやまりなり。こゝには。ぐち筋をとすじいふなり』
(七ウ)



(八オ)

①此すぢの見様みようあり。命ながくおもひ事なし。ますかけすぢをよく見て。一代の事を。きわむべし。金銀おほくもち。富貴ふうきの人なり。子もおほくあるべし ②ますかけすぢ さいしもつ ③命ながし ④ふんべつあるもの しゃうじき』(八オ)





(八ウ)

①命の筋すぢは。いかにも長く。とほりたるがよし。これもところ／＼。きれてあれば。後のちには。わづらひ。いでくるものなり。命のすぢも。二すぢ。三すぢあるもあり ②此やうなる。ゆびさきの者は。少物かくなり。 ③此ごとくに。されたるすぢ。事の外。あしきなり ④此すぢは二三ど。まさしく。死しする事あるべし。是これは大事なきことなり。老人らうじんなどに。此やうなすぢありて。たび／＼命いのちをうしなふ。程ほどの事にあふて命をひろいたる人と。見るべし。此人は命長ながきもの也』(八ウ)

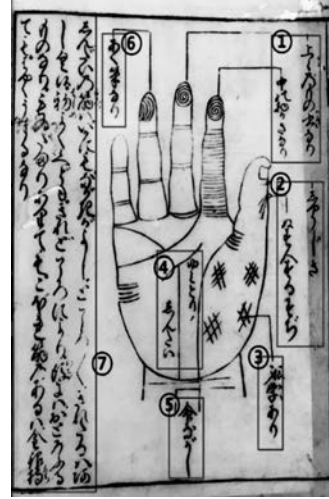


(九オ)








①人の一代だいを見るに。春夏はるなつ秋冬あきふゆの。四季しきあり。六十一を。じやうめうときわめて。此すぢは。春はるすこしよからず。なつはよし。秋あきふゆあしきなり。おもひ事あり。まづしくして。心さだまらず。こしよいかみに。やまひあり。子一人あるべし ②此ごとくに。すぢの。さだまらずしてわきへまはりたるは。ものかゝずがくもん学文がくもんなどもぶきやうなり ③しゃうじきなり』(九オ)



紋相拜	紋季四
	
<p>拜相紋といふて。男女共によく。くらい高く。文に達し。智恵もふかし。常に。思ひ事なし。おや孝行にて。神を。うやまひ。なをくよし</p>	<p>春は青夏あかく。秋は白く。冬黒し。是四季の紋といふ。又秋赤冬黄なるは。ぎやくにてあしし。次下と見合。占なふべし</p>


①上々のもの書なり 中の物かさなり ②しやうじき ぬす人するすぢ ③才学あり ④ゆみとり しんたい ⑤命ながし ⑥あく筆なり ⑦しんだいの筋は。いかにも。ながきがよし。ところく。されたるは。あしく候。初よく候へども。きれどころにより。後には。おとろふるものなり。ものたまりありても。こぼれ筋のあるは。金銀持てもはやくうするなり』(九ウ)






(九ウ)

紋日三	紋筆資	紋直四	紋花六	紋魚雙	紋陣偶	紋花金
						
<p>れみてつかふべし。又中年に。口舌あり慎て吉</p>	<p>大きにあし。成程清浄成事をして。吉』(十ウ)</p>	<p>世をわたる也。但し三十三にて病ありつゝしむべし</p>	<p>六花紋有人は。六七才にて。親にはなれ。苦勞するなり。男女共に。出家になりてよし。在家にては。思ひ事たへず。火難に。さいくあふべし</p>	<p>一代不動明王を信ずべし</p>	<p>鷹陣紋とて。一度は。富貴なり。さりながら。思ひよらざる事にて。中年に身軀を。やぶるなり。男女共に。姪欲を慎てよし。老ては。仕合よし』(十才)</p>	<p>金花紋ある人は。富貴にて。下人あまた持。人より。うやまわるゝ生なり。いよく慈悲心の。をこし。あはれみて吉。子孫繁昌すべし</p>

紋堂罌	紋峯三	紋井玉	紋身五	紋陣筆	紋桂玉	紋伎高
						
<p>ず。常に用心ありて。氏神を信ずべし』(十一ウ)</p> <p>学堂紋といふて。富貴にして。智恵ふかく。親兄弟に縁ふかし。井五六の比。下人災をなすべし。くるしからず。常に用心ありて。氏神を信ずべし』(十一ウ)</p>	<p>ぼる人なり。男女共に。つゝしみてよし</p> <p>三峯紋といふて。仕合よく。發明なりといへども。しやけんにて。殺生をこのむなり。下々をもなやましむさぼる人なり。男女共に。つゝしみてよし</p>	<p>大きによし。耕作はあしし</p> <p>玉井紋有人は。富貴にして。仁義たゞしく。道者なり。さりながら。中年に病多し。慎て養生すべし。出家武家は大きによし。耕作はあしし</p>	<p>成は。大きに悪し男女共に始の縁替也』(十一オ)</p> <p>立身紋といふて。心の内におもはざる口舌ありて。物事たらわぬ生なり。男は。女に縁うすく。女は。男に縁うすし。大信心をこし。観音氏神を信仰すべし</p>	<p>と成て。我より下成ものを。あわれみては吉。じやけん成は。大きに悪し男女共に始の縁替也』(十一オ)</p> <p>筆陣紋といふて。仕合よく。思ひ事なし。但シ一門の頭と成て。我より下成ものを。あわれみては吉。じやけん成は。大きに悪し男女共に始の縁替也』(十一オ)</p>	<p>明也。但し子に縁なし。養生すべし。たとへ若年にて。貧とも。老て富貴なり。子孫繁昌すべし。</p> <p>玉桂紋といふて。正直にして。しかも慈悲ふかく。聡明也。但し子に縁なし。養生すべし。たとへ若年にて。貧とも。老て富貴なり。子孫繁昌すべし。</p>	<p>高扶紋有人は。短氣にして。人と交なし。自ちからと成人もなく。心ぼそし。常に観音を念じて愛敬を求べし。但し井六七にて。一門の家屋敷を取也</p>

紋金千	紋才三	紋字川	紋喜天	紋費小	紋厚福	紋輪車
						
<p>千金紋といふて。少年の内命あやうし。はやく親に。はなるゝ事あり。氏神に命ねがふべし。年寄ては。くるしからず。福德ありて。仕合よし</p>	<p>神の信ずべし</p> <p>三才紋といふて。命短して。貧賤なり。たとへ親のゆづりの賤宝有共。ことづく。うしなふ。つねに慎て佛神の信ずべし</p>	<p>君子ニ奉公する事あり</p> <p>川字紋といふて。親孝行にして。命ながし但し一代魚賣畜生をやしなふべからず。必災有。又井四五にて。</p>	<p>なすべし。なを未繁昌なり』(十二オ)</p> <p>天喜紋といふて。仕合よく。田地を多持て。耕作して吉武家町人は。相應せず。子四人有一人医師又は。出家に</p>	<p>縁ふかく年寄までそふべし</p> <p>小貴紋といふて。一生貧にして。金銀手にたまらず菩提心のころろがけあり。出家になりてよし。親兄弟に</p>	<p>のうへを。慎べし必災あり</p> <p>福厚紋といふて。命ながく心にたのしみ多しと思ひ事なし。平生酒を。このむ生なり。男女ともに一代船の上馬</p>	<p>よし在家にては。命あやうし</p> <p>車輪紋といふて。学文ありて。能書成べし。さりながら。井すきて。病氣なり。姪欲を慎み男女共に出家になりて</p>

銀河紋	震卦紋	雜卦紋
		
銀河紋といふて。男なれば。妻子をさまたげ。女は。二心ありて。男をなやます筋なり。佛神に願のかけて。つゝしむべし	震卦紋といふて。大事なり。善をなしても。悪事でも外百里に。きこゆるなり。男女共に大信心おこし慈悲ぜんごんなすべし	離卦紋といふて。貧賤の紋なり。或は。かな山のやう成事を。たくみ。人をたばかり。金銀賤宝をむさぼる生なり。慎て吉心入によりて。命危し(十二ウ)

蜀の先王は。身のたけ。七尺五寸。有て。手たるれば膝にあり。白き事。玉のことし。しかれば。富貴貧賤は。手の筋にありといふ。故に。掌の紋を論ず。手の中に木といふ紋あるは。男女ともに。形うつくしく。智恵あり。紋なきは。いやしき相。紋ほそうして。ふかきは吉。浅ものは。いやしく貧なり。掌の上に。三紋なき者は。思ひ事かなわす。うれひ多し。掌紋みだれがわしきは。災あり。』

(十三才) 横に紋多者は。愚痴にして。賤なり。紋ほそくして。みだれいとのごとく成は。聰明にて。福徳あり。紋ふとく明ならざるは。愚にして。貧賤なり。宝銭紋あるは。金銀多持。十のゆびの上に。此紋あるは。富貴なり。十の指の上に紋横に三つ。釣のごとくあるは。下人牛馬を多持。十の指に紋横に一筋つゝあるは。賤なり。延寿紋あるは。福徳あり。印紋あるは。貴。田紋あるは富。井紋あるは。福

あり。十の紋あるは。禄あり。結閑紋あるは。妨害心多し。夜叉紋あるは。下賤にして。盜賊の心あり

玉掌記

掌を相する法。先八卦五行をはかり。次に。指の長短。掌の厚薄を見て。考べし。掌の内に。結角紋。日羅紋。雙魚紋。井金井紋。玉塔紋。飛針紋。鴈陣紋。(十三ウ) 偃月紋。云環紋。南星紋。北斗紋。禽獸紋。龜紋。已上富貴にして。能紋なり。此紋は一品の位にて。官位の紋なり。水に溺て死す。乾坤良異の四門。掌にあるは。奉行代官等にて。物がしらとなるべし。其紋ふとくあらは成は。心虚なり。紋見へざるものも。心味し。是には。口傳あり。よく見合すべし。手の内冷きは。夢おほく見る。ゆびの先とがり長は。学文ありて。貴なり。指さき。たひらか成は智恵ふかし。指の皮乾にく枯たるは。命みぢかし。手大きく。指ちいさきは。貧なり。此紋あるは富貴にて。たのしみ多し。此紋は聰明にして智恵あり。是を繩紋といふて。人とあいきやうありて。心すなをなり。是を交紋といふて。一代住所に思事なく。古郷をさらす。人。兩條紋と名て。聰明にて。(十四才) 位あり。生魚紋といふて。兄弟親類の中よくして。妻子に縁ふかし。一字紋といふて。言葉おほくして。口ゆへ。人と縁なく。うらみをうくる。金印紋といふて。少年に苦勞おほく。親兄弟にはやく。はなるべし。交紋印。象眼印。手印。此四印手に有は。信心ふかく。災なし。男の手の内に。女。女といふ。字女の手の内に。男。おとこといふ。此二字男女共に。生ずるは姪欲ふかくして。あやうき事あり。四十まで。かたくつゝしみて。吉人。三角印。掌の下に生ずるは。かな

大坂敦賀屋九兵衛

(以上、翻刻終わり)

らず。悪人にて。好て。盗賊すべし。蓮花紋といふて出家又医師と成
 此三を断頭の紋といふて。口舌おほく。命をそこなふもんなり。慎て
 佛神を信ずべし。(十四ウ) 横屍の紋一。生口舌たへず難にさいく
 逢紋なり。刑枷瑣の紋。手かせ足かせのなんにおふて。籠舎などをすべ
 し。火字の紋とて。くわなんに逢もん。悪産死紋。男は思ひよらざる
 事にて死す。女は。産の道にて命あやうし。血妬妻の紋は悪もんなり。
 右八つの紋のことくく。わろし。男女共につゝしむべし。掌の内
 にあるは。富貴にして。心清親に孝行なり。唐の。姜詩といふ人。
 母に孝行なり。母つねに。入江の水を好み又生魚の膾を好みけり。
 則。姜詩毎日六七里の道をへだてたる。いりゑの水をくましめ。又
 魚の膾をよくしたゝめて。あたへけり。ある時姜詩が家のかたわら
 に。たちまちに。きよき水わきて。毎朝水中に鯉あり。是を取て。即
 母にあたへけり。かやうの不思議も皆親孝行。(十五オ) ゆへ。天道
 も。かんをふましめて。つるに富貴にして。栄花なり。則姜詩
 掌のうちに。かくのごとくの紋あり

人相小鑑卷之四終

人相小鑑者為童蒙之今以二大和假名編二四

卷二而鑑人無違毫釐故録梓行世者也

貞享元甲子歲仲秋上旬

江戸山崎 金兵衛

書林

おわりに、

前稿で『人相小鑑大全』は、『神相全編』に拠っているとされてい
 る浅井了意『安倍晴明物語』(寛文二(一六六二)年正月刊)「人相巻
 上・下」とは、本文系統が異なる旨指摘した。その際、『神相全編』
 本文との比較を行わなかつたので、ここに言及しておきたい。

結論から述べると、『人相小鑑大全』は和刻本『神相全編』(慶安四
 (一六五二)年九月)本文に拠っていることは明らかかなものの、割愛
 や文言変更が多く、章構成も異なっている。たとえば、「人面八相之
 図」は『神相全編』では中巻に配置されているが、『人相小鑑大全』
 では上巻に配置されている。これは、『人相小鑑大全』が観相書であ
 ることを明確にするための配置替えであつたと推察する。さらに、
 『神相全編』において「論」の後に「詩」を付すが『人相小鑑大全』
 では、一切採用していない。日本の読者には不要と考えての措置であ
 る。

両者における文言の比較のため、一例を示してみよう。『神相全編』
 巻之中「相口」は右のような内容である。

相口

口為言語門飲食具萬物造化之關又為三心之外戸賞罰之所レ出
 是非之所レ會也端厚不妄誕謂之口徳誹謗多言謂之口一

賊方^ト潤^{ニシテ}有^レ稜^者主^レ壽貴ヲ形如^ニ角^一弓^一者主^ニ官^一禄^一横^一闊^{ニシテ}
而厚^者福^富正^一而不^レ偏^厚而不^レ薄^力者衣^一食^一如^レ四^一字富^一
足尖^一而反^偏而薄^寒賤^{ナリ}」〔後略〕

再掲になるが、『人相小鑑大全』の「口の部圖論」は、右の文言によって作成されたことは明らかである。

口は言論の門。飲食の通ずる所。一心の外戸。是非を會する處なり。端厚にして。妄誕せざる是口の徳なり。誹謗多言なる。是を口賊といふゆへ善悪を上て論ず。口潤くゆたかなるは。命ながく貴なり。口弓のほこのなりしたるは官禄あり。横ひろくして厚は富貴なり。厚ゆたかなるは。衣食多し。口四の字のごとく成は。富貴にして。知恵ふかし。口とがりて。うすきは。貧賤なり。〔後略〕

「萬一物造一化之關」等の文句を省略したり、「如^ニ角^一弓^一者主^ニ官^一禄^一」を「口弓のほこのなりしたるは官禄あり」と日本の読者に馴染みやすい表現に書き改める配慮を見せているものの、内容はおおむね『神相全編』に拠っている。

だが、『人相小鑑大全』は『神相全編』の忠実な再現にはなりえていない。さらに、一例を挙げる。『人相小鑑大全』下巻に「四季紋」にはじまり「銀河紋」に終わる全二十六種の手相とそれらの運勢の記載がある。やはりこれも『神相全編』巻之下の列挙と順序に拠っているものの、かなり割愛が見られる。『人相小鑑大全』では「拝相紋」の次に「雁陣紋」が配されているが、『神相全編』ではこの間に「帯印紋」「兵符紋」の二種がある。その他「懸魚紋」「金龜紋」「離卦紋」

「文理紋」等も割愛されている。『神相全編』が全七十二種の手相を掲げたのに対し、『人相小鑑大全』ではその半分にも満たない二十六種の紹介にとどまっている。丁数の都合で割愛したのかあるいは、日本の読者に馴染まないであろう手相を割愛したのかその理由は明らかではない。

このような『人相小鑑大全』の編集方針は、『神相全編』の利用のあり方から導き出せるであろうが、紙幅の都合もあり後稿を期したいと思う。

〔注〕

- (1) 和田恭幸『安倍晴明物語』の世界（『国文学解釈と鑑賞』第67号6号 二〇〇二年六月）
- (2) 引用は、名古屋市鶴舞中央図書館河村文庫蔵本（請求番号 河シ-1 (3) 1225）に拠った。

〔付記〕

『人相小鑑大全』には、人権上適当ではない表現が含まれているが、原作を尊重し、手を加えずに掲載した。なお、本稿は、二〇一七年度秋学期に河戸愛実氏が提出した卒業論文「脇顔の痣 付『人相小鑑大全』翻刻―浮世草子から見る観相学―」に依拠している。

（はまだ やすひこ 日本文学科）

（かわと まなみ 日本文学科二〇一七年度卒）

二〇一九年十一月十五日受理